

ランチョンセミナー 9

脊髄髄内腫瘍術後遺残疼痛 のバイオマーカー探索

座長

川口 善治 先生
富山大学医学部整形外科 教授

演者

辻 収彦 先生
東邦大学医学部整形外科学講座
大橋病院 准教授

日時 ▶ 2025年12月6日 (土)
12:00 ~ 13:00

会場 ▶ 第1会場 (大ホール)
東京ビッグサイト
〒135-0063 東京都江東区有明 3-11-1

● 本セミナーは整理券制です
当日事前配布 (8:30~11:00)
配布場所 (会議棟7F 総合受付隣)

ランチョンセミナー 9

脊髄髄内腫瘍術後遺残疼痛のバイオマーカー探索

医療技術の発達により運動器疾患に対する手術の治療成績は向上しているが、脊髄髄内腫瘍の手術治療後は神経脱落症状のみならず、異常知覚やしびれを伴った疼痛により患者の日常生活動作は著しく障害されることをしばしば経験する。また、脊髄腫瘍に限らず、脊椎変性疾患においても、日常診療においては難治性の術後遺残症状（疼痛・しびれ）にしばしば遭遇する。これまでに脊髄髄内腫瘍術後患者85例での患者立脚型評価により、NPSI10点以上の術後痛を有する割合は56%であり、特に知覚障害/異常感覚のサブスコアが有意に高く、病理組織毎の評価では星細胞腫で灼熱痛、血管系腫瘍では発作痛が強いことを報告している[Nakamura M, Tsuji O, et al. J Orthop Sci 2012]が、術後疼痛の客観的なバイオマーカーの発見には未だ至っていない。われわれはこれまでに、慶應義塾大学整形外科・麻酔科及び星薬科大学薬理学研究室と共同研究チームで、AMED慢性の痛み解明研究事業にて術後疼痛のバイオマーカー探索研究を2020年度から継続して行っている。本講演においては、髄内腫瘍術後のバイオマーカーの網羅的探索の結果、脊髄腫瘍の疫学データ、日常診療における脊髄腫瘍を疑う特徴的な症状について概説する。

辻 収彦 先生

（東邦大学医学部整形外科学講座大橋病院 准教授）